

能代支援学校 地域支援だより

かけ橋

発行

秋田県立能代支援学校

令和5年3月17日(金)

第87号

「全ての子どもが地域の宝物、希望です」

校長 佐藤 玉緒



2007年4月に特別支援教育が本格実施となってから、15年が過ぎようとしています。そのころの私は、インクルーシブ教育が始まる、「分けない教育」が行われるようになる、どんなことができるだろうと、わくわくしたものです。しかし、現実には「分ける」ことが加速度を上げ、特別支援学校で学ぶ児童生徒数は減り続ける全児童生徒数に比例していません。昨年9月、国際連合は日本政府に対し、特別支援学級のような制度はインクルーシブ教育とは両立しないため、「障害児を分離した特別支援教育の中止」を勧告しました。特別支援学校に入学することは悪いことだとは思いませんし、「一人一人の子ども」が原点であり出発点である特別支援学校での教育はむしろ必要不可欠と考えます。では、何を問われているのでしょうか。

秋田県には、13市9町3村の25市町村あり、小学校は170校超、中学校は100校超です。これに対し特別支援学校は12校2分校1教室（今年度末をもって閉室）しかありませんので、児童生徒の出身地は広域の市町村にまたがっています。本校は平成6年に開校し、間もなく30周年を迎えますが、開校以来大事にしてきたことの一つとして、「地域に根ざす学校を目指すこと」でした。本校に入学した子どもは、居住地の小・中学校に通う多くの子どもと離れて学校生活を送ります。一度「分けられて」から、再び「共存、共生」と言われても戸惑いが広がることは必至です。ですから、日常的に一緒にいられる場や時間が必要です。本校が、特別支援学校が交流及び共同学習に力を入れるのはそのためでもあります。本校の子どもたちも地域の一員であり、宝物であり、希望であることを忘れないでほしいのです。今、日本が問われているのは、まさに地域の在り方ではないかと思うのです。

特別支援教育の充実、本校の使命の一つです。能代・山本地区のセンター的機能を担う特別支援学校として、地域と連携して特別支援教育のさらなる充実を図り、地域の子どもたちが生き生きと生活できるよう役割を果たして参りたいと考えております。「交流及び共同学習」を引き続き推進し、地域の方々と共に学び、共に育つことができるよう力を尽くして参りますので、一層のご理解とご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

ミニセミナー「こみっと」

～たくさんの御参加ありがとうございました～

今年度はミニセミナー「こみっと」を5回実施し、地域の学校（園）から、のべ48名の参加がありました。参加者から「他校（園）の取組が参考になった」「いろいろな話をすることで解決につながった。」「似たような悩みがあるのだと思った」「支援が必要とされている子どもでなくても、役に立つと思った」などの声をいただき、地域の学校（園）の特別支援教育に関する研修・情報交換の場になっていると感じました。今回は第5回「次年度への引継ぎについて」の内容を御紹介します。

《支援をつなぐ》

特別な支援を必要とする子どもたちは
就学・進学等に伴う環境の変化が苦手

小学校

- ・教科の学習
- ・一斉指示による集団学習
- ・時間ごとに異なる授業
- ・集団登校 …など



中学校

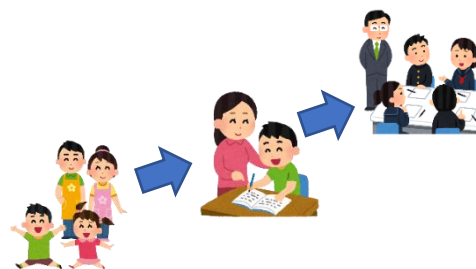
- ・教科担任制
- ・定期テスト
- ・50分授業
- ・部活動 ・制服
- ・通学手段の変化 …など



就学先・進学先の学習や生活の違いを意識し、行ってきた支援を確実に引き継ぐ

《就学・進学に関わる引継ぎのためのツール》

- ・個別の支援計画、個別の指導計画、実態把握表
- ・就学支援シート、就学相談ファイル
- ・かがやき手帳
- ・法定諸表簿（指導要録、出席簿、健康診断票）
- ・その他（教材・教具、学習指導案、学習の記録）



「配慮事項」「支援のコツ」を引き継ぐ
（「～の時は、～すればいい」が分かるように）

第5回参加者アンケートより

- ・切れ目のない支援ができるよう準備していきたい。
- ・園全体にも伝え、つなげていきたい。
- ・具体的な手立てを伝えていく大切さを痛感した。
- ・次の学年へ、より具体的な引継ぎをしていきたい。



第5回ミニセミナー「こみっと」より

今年度も、本校のセンター的機能を活用していただき、ありがとうございました。

秋田県立能代支援学校

教 頭 佐藤 圭吾 教育専門監 渡部 陽子 地域支援部主任 船山 真生

TEL 0185-55-0691 FAX 0185-55-0681

ホームページ <https://noshiroshien.ed.jp>

E-mail noshiro-s@akita-pref.ed.jp